

じょうおう じ ほうべんほっしんそんぎょう
浄應寺方便法身尊形

1 種 別	有形文化財（歴史資料）
2 名称及び員数	浄應寺方便法身尊形 1幅
3 所在地	大館市字大館5番地
4 所有者	浄應寺
5 制作年	文明15年（1483）
6 材質・形状	絹本著色、軸装
7 寸法	本紙縦62.7cm、横28.4cm
8 説明	

本資料は、大館市の浄應寺に創建時の本尊として伝わる阿弥陀如来の絵像である。

寺伝によると、開山の道願^{どうがん}は河内国の生まれで、元は武士であったが、出家して本願寺中興の祖である第8代法主の蓮如より絵像を下付され、その後浄土真宗の布教活動を行うようになった。一時、久保田寺内村（現秋田市寺内）に草庵^{たらくい}を結んでいたが、明応年間（1492～1501）に北秋田郡片山村立杭（現大館市片山）で浄應寺を創建し、本絵像を祀った。

方便法身尊形は、蓮台に立つ阿弥陀如来が白毫^{びやくごう}から頭光^{ずごう}を透過して放射状に48本伸びる光明とともに、藍や群青の背景に金泥^{きんでい}や截金^{きりかね}によって描かれるのが一般的である。また、真宗において絵像は、名号^{みょうごう}と並んで本尊として位置付けられるものであり、門徒集団の要請で法主より下付されることが多かった。蓮如は教団拡大のため、積極的に自ら裏書きをした名号や絵像を下付した。

本絵像は一般的な方便法身尊形の描かれ方と一致しており、裏書きから、道願が久寶寺地区（現大阪府八尾市）で蓮如の門徒であったこと、文明15年に下付されたことなどが分かる。また、現在県内において紀年銘が確認できる絵像の中では最古の作例と言える。15世紀末より真宗寺院が県内各地に創建され、伝播が確認できるが、大館盆地では浄應寺が最古である。以降この地域で3か寺が創建されたことから、真宗の広まりをうかがうことができる。

本絵像は現在県内で紀年銘が確認できる最古の方便法身尊形であり、蓮如より下付され当地に伝わったことが明らかなものである。真宗伝播の空白地域への真宗の広まりを示す資料として貴重である。

参考文献

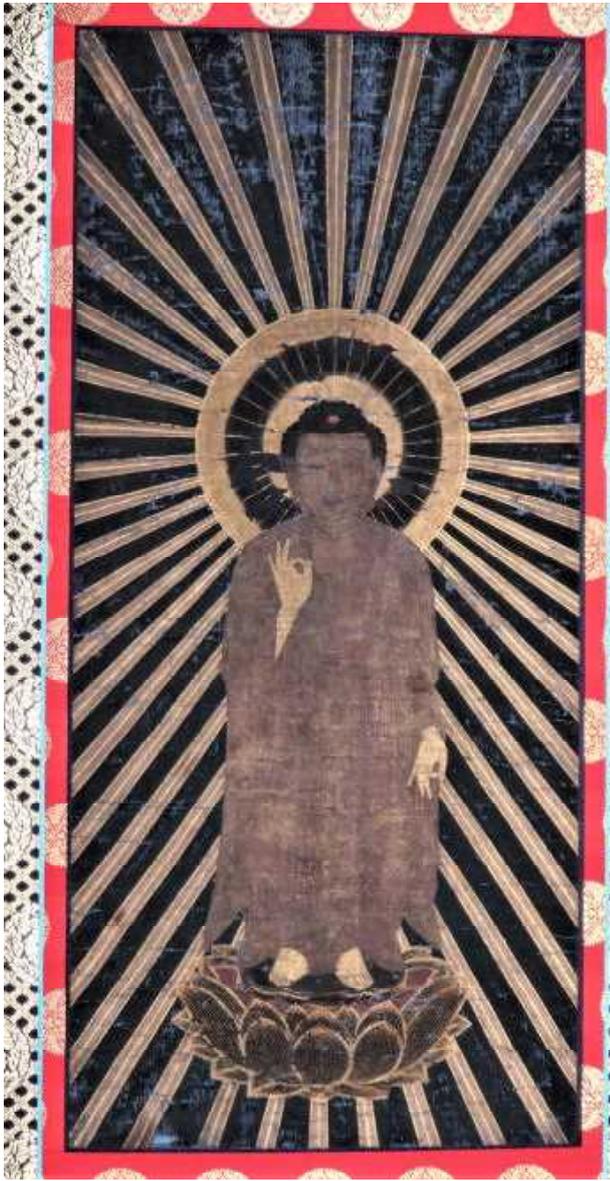
秋田県教育委員会 『秋田の仏像と寺社什物Ⅰ』 平成28年（2016）3月

井川芳治 「蓮如裏書の方便法身尊像考」『同朋仏教』第32号 平成9年（1997）12月

伊藤清郎、菅田慶信編 『中世出羽の宗教と民衆』 高志書院 平成14年（2002）12月

菅田慶信 「戦国期奥羽の本願寺教団」『白い国の詩』 平成15年（2003）5月

菅田慶信 『中世奥羽の仏教』 高志書院 平成30年（2018）5月



浄應寺方便法身尊形



方便法身尊形

久寶寺法光門徒
河内国古市郡譽田

陰士 (花押)

文明十五年 卯
六月七日

願主 釋道願

浄應寺方便法身尊形裏書き